

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第57回: 次の50年の日・ASEAN協力

2023年9月28日配信

【ポイント】

■9月6日～8日、ジャカルタでASEAN関連首脳会合開催。

日・ASEAN関係を包括的戦略的パートナーシップに格上げし、12月16日～18日東京で行われる予定の日・ASEAN協力50周年特別首脳会合に繋げる、日・ASEAN包括的連結性イニシアティブを発表。

■次の50年に向けた日・ASEAN協力の方向性は、次の3点。

- ①ASEAN分断を踏まえASEANファースト維持しつつ「一層のテーラード・アプローチ」導入
- ②「日本ならではの協力」に重点; 質高インフラ+ハイテク・高付加価値＝包括的連結性
- ③協力の幅を拡大＝経済重視から、共通の戦略目標(ルールに基づく秩序、自由で安全な航行)実現のための「安全保障面での協力強化」へ

【本文】

■9月6日～8日

ASEAN関連首脳会合(ASEANインド太平洋フォーラム→日・ASEAN首脳会合→ASEAN+3首脳会合→東アジア首脳会議)をジャカルタで開催。

- ・日本からは、日・ASEAN包括的連結性イニシアティブを発表。
- ・また、ASEANとの関係を、戦略的PSから包括的戦略的パートナーシップに格上げ
- ・これらは、日・ASEAN協力50周年を記念するASEAN特別首脳会合(於東京12月16日～18日)に繋げることを念頭に置いたもの。

■これまでの50年の歩みと現状

- ・現在、第三世代問題に直面
 - ＝日本は東南アジアにおいて「特別な存在」ではなくなりつつある+上から目線は実態に合わない
- ・第一世代＝戦後の日本による支援を共に実施＝国造りへの協力
 - ＝日本との関係が特別なことを身をもって体験(含む戦中)
- ・第二世代＝生まれた時から日本が特別な存在＝繁栄・成長のための協力
 - ＝苦しい時には日本に頼ることを当然視。
- ・第三世代＝他に選択肢は色々ある＝「なぜ日本？」から始める必要のある世代
 - ＝「日本ならではの協力」が必要

■次の50年の課題

①ASEAN分断を踏まえASEANファースト維持しつつ「一層のテーラード・アプローチ」導入

- ・表看板(=ASEAN一体性重視)は不変=BRICS新規加盟国が無かった(インドネシアが招請を受けなかった背景には、このこともある)ことから見れば、団結を保つ表看板として一定の意義を果たしている
- ・ただ、實際上分断は進行。それに応じ一層のテーラード・アプローチをとる=幾つかの国に厚めに協力

②「日本ならではの協力」に重点; 質高インフラ+ハイテク・高付加価値=包括的連結性

- ・東南アジアは、未だに高い成長潜在力=成長に向けた協力は引き続き重要
 - * ASEAN10カ国の人口は6億5000万人超 \geq EU27カ国+英 5億1000万人
 - * しかし、未だGDPはEU+イギリスの1/6、一人当りGDPではEU+イギリスの1/8
- ・日本ならではの協力とは何か?
- ・人材育成=今後の持続的成長のための鍵+人口減少に直面する日本にとってもプラス
 - * ASEANインド太平洋フォーラムで、岸田総理は今後3年で5000人育成を発表
- ・質高インフラ協力の強化・継続=「安くて速い」インフラでは最早不十分
 - * 今回岸田総理から、交通インフラに円借款中心に2兆8000億円のプロジェクト実施を表明
- ・高付加価値な包括的連結性強化のための協力=グリーン成長、連結性、AI・ハイテク、サプライチェーン強靱化等
- ・現地の財閥と協力した横展開=同じ目線での協力

③協力の幅を拡大=経済重視から、共通の戦略目標(ルールに基づく秩序、自由で安全な航行)実現のための「安全保障面での協力強化」へ

- ・日本ができること
 - * シーレーンに沿って存在する海のASEAN諸国(フィリピン、ベトナム、インドネシア、シンガポール)の沿岸警備能力、海軍能力の優先強化
 - * インテリジェンス情報共有=東シナ海情勢の共有は南シナ海問題対処でも重要。
 - それに備えた重要国(ベトナム、フィリピン)とのGSOMIA締結
 - * 共同訓練=それに備えた重要国(ベトナム、フィリピン)とのACSA(自衛隊と他国との間で物資や役務を融通しあうための協定)締結
 - * 防衛装備品移転=既に装備品移転協定は殆どの国と締結済み。後必要なのは、サクセス・ストーリー
 - * OSF; 軍民共用インフラ構築に向けた協力

以上

りそな総合研究所 顧問 石井正文